

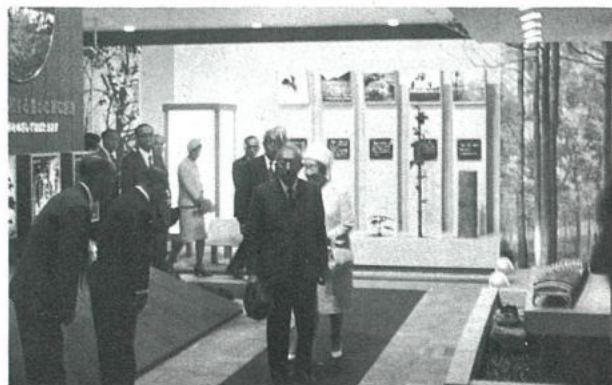
県宮種山牧野（住田町）では、北上山系の雄大な景観をご満喫された。



故国に植樹するため、はるばるブラジルから訪れた移住者の一行25人（内県出身者20人）。天皇陛下にお言葉をいただき、感激のあまり涙ぐむ人もいた。



県立松寿荘（雫石町）では、お年寄りたちの元気な姿に、ことのほかご満足のご様子だった。



林業展示館（県林木育種場内）では、キリやイヌワシなどに深いご関心をしめされた。



知恵遅れの子供たちのための施設「はまゆり学園」では、子供たちにやさしくお声をかけられていた。



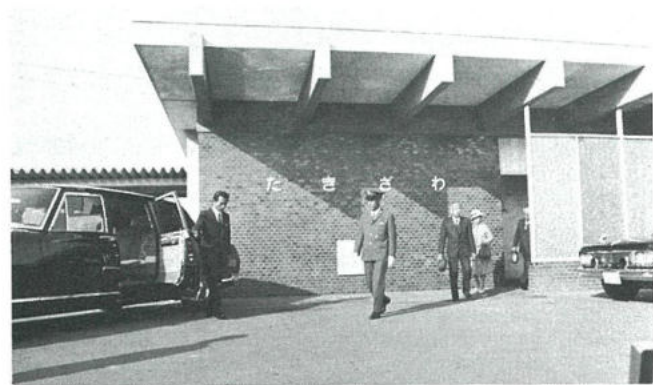
5 宮古魚市場をご視察された両陛下。ズラリ並んだ“三陸の幸”を興味深くご覧になられた。



お宿舎の宮古国民休暇村では予定外に遊歩道をご散策。陛下の博学にご説明役の村井三郎大講師（農博）も汗ダク。



東北林木育種場（滝沢村）は、生物学者の陛下だけに、ことのほかご興味深げなご様子だった。



両陛下は18日、滝沢駅で岩手への第1歩をしるされた。

国立岩手山青年の家では、青年の立派な成長を願うお言葉を賜った。



**天皇陛下 お言葉**  
 昭和四十九年五月十九日第二十五回全国植樹祭（岩手県民の森）  
 本日、第二十五回全国植樹祭に臨み、この東八幡平において、諸君と共に親しく植樹を行うことは、まことに喜びに堪えません。  
 このたびの植樹行事が、「自然と産業が調和する豊かな緑の創造」を特に強調して、関係者の努力により、盛大に行われることを、深く満足に思います。  
 国土の緑化は、災害を防止し、森林資源の確保、水源の涵養、生活環境の改善などのために、極めて重要なことであります。今後とも関係者一同ますます協力して、植樹を推進し、心身ともに健康で豊かな生活の実現に寄与するよう、切に希望します。

天皇、皇后陛下は、全国植樹祭にご出席のため五月十八日ご来県、六日間にわたって県内をご視察になった。  
 両陛下のご来県は、昭和四十五年の岩手国体以来で四年ぶり、両陛下おそろいでの沿岸部ご旅行は初めてであった。  
 ご視察は、十九日の植樹祭後の国立岩手山青年の家と東北林木育種場、二十日のお手まき後の種山牧野、その後沿岸にまわられて、二十一日と二十二日は陸前

高田市から宮古市までご旅行されての県水産試験場、はまゆり学園、宮古魚市場、浄土ヶ浜レストハウスでのご眺望など。  
 二十二日は盛岡市にもとられて、県立松寿荘、小岩井農場などをご視察になった。  
 この間、連日晴天に恵まれ、両陛下は長旅の疲れもおみせにならず、雄大で美しい景色や産業、福祉の充実ぶりなどをご覧になり、また、各地での熱心な歓迎に深くご満足のご様子だった。